

「On the Ground 2011」ーグリーンピースと同調者による論争

国際ニュース 2011年10月17日

PEFCは、FSCのサポーターとしてよく知られる諸団体の連合によって昨日出発された「On the Ground 2011ー PEFCとSFIに関わる論争」の最終版に盛り込まれている主な主張の論点を否定しました。この報告者は、当初、PEFCと競合する他の認証制度である森林管理協議会FSCのウェブサイト上に掲載されました。



PEFCは、この報告書の初版に対してすでに回答をしておりますが、この度、最終版に新たに盛り込まれた修正点を反映させるためにその回答も更新しました。

グリーンピースとその同調者による主な主張には、PEFCが透明性に欠ける、ステークホルダーの参画が不適切である、苦情処理の手順が不適切である、などの点が挙げられています。これらの断定に対し、国際PEFCの事務局長Ben・Gunnebergは、「『On the Ground 2011』には多数の誤りと歪曲に基づいた主張が盛り込まれており、PEFCはこうしたグリーンピースと同調者の主な主張を拒絶します。」と述べました。

PEFCは、協調は常に対決に打ち勝つと言う信念を強調したいと思います。私どもは、私どもの組織に対する批判があればすべて真剣に受け取り、私どもの仕事やその成果を理解、または、それについて知りたいと思う人達と十分な協力のための努力を傾けます。

PEFCもグリーンピースも、持続可能に管理された森林というビジョンを共有しています。グリーンピースとPEFCの主な違いは、グリーンピースがキャンペーンを目標達成のための主要な手段としている圧力団体であるのに対して、PEFCはメンバー制に基づいて、マルチ・ステークホルダーによる規格の策定に従事する組織であり、目標の遂行のために社会的な対話を利用するという点です。

PEFCはグリーンピースの報告書を熟読し、その不正確で歪曲された助言などを明確にするためにポイントごとに回答しました。それは、私どもが常にできる限り自らの行いや説明責任を改善するための努力を続けているからです。さらに、森林認証の問題への解決法に関して私どもの観点がグリーンピースとは明らかに異なる側面に関する情報も盛り込みました。

「ステークホルダーとの間の対話は、如何なる形であれ、オープン、透明、かつ生産的な方法でなければならないし、真に建設的で生産的であるためには善意に基づいていなければなりません。」と前述のガニバーグ氏は強調します。「同じ見方を取らない人たちからの批判はあったとしても、森林や人々の恩恵のための建設的で前向きな対話が可能であることを、切に望みます。」